

1 自己評価及び外部評価結果

【事業所概要(事業所記入)】

事業所番号	1092700010		
法人名	((有)) 桜井商事		
事業所名	グループホーム 月夜野の里		
所在地	群馬県利根郡みなかみ町真庭363 (電話)0278-62-3348)		
自己評価作成日	平成23年6月24日	評価結果市町村受理日	

※事業所の基本情報は、公表センターページで閲覧してください。(↓このURLをクリック)

基本情報リンク先	http://www.kaigo-joho.pref.gunma.jp/
----------	---

【評価機関概要(評価機関記入)】

評価機関名	サービス評価センターはあとらんど		
所在地	群馬県前橋市大渡町1-10-7 群馬県公社総合ビル5階		
訪問調査日	平成23年7月11日		

【事業所が特に力を入れている点・アピールしたい点(事業所記入)】

個々のニーズを把握して能力を発揮。その人らしさが表現できるようにしている。

【外部評価で確認した事業所の優れている点、工夫点(評価機関記入)】

施設として災害対策については昼夜訓練の他に深夜設定の訓練を夜勤者全員が交代で行い、利用者の生命を大切にしている姿勢がうかがえる。本人の言葉による意向の確認を行い介護計画にきっちり結び付けている。身体介護の基本である入浴介助も入りたいたいときに入れる支援を行っている。地域に根ざした施設として開放的なホームをアピールし実践を積んできていることがサービス提供場面で確認できた。
--

V. サービスの成果に関する項目(アウトカム項目) ※項目No.1~55で日頃の取り組みを自己点検したうえで、成果について自己評価します

項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印		項目		取り組みの成果 ↓該当するものに○印	
56	職員は、利用者の思いや願い、暮らし方の意向を掴んでいる (参考項目:23,24,25)	○	1. ほぼ全ての利用者の 2. 利用者の2/3くらい 3. 利用者の1/3くらい 4. ほとんど掴んでいない	63	職員は、家族が困っていること、不安なこと、求めていることをよく聴いており、信頼関係ができている (参考項目:9,10,19)	○	1. ほぼ全ての家族と 2. 家族の2/3くらいと 3. 家族の1/3くらいと 4. ほとんどできていない
57	利用者と職員が、一緒にゆったりと過ごす場面がある (参考項目:18,38)	○	1. 毎日ある 2. 数日に1回程度ある 3. たまにある 4. ほとんどない	64	通いの場やグループホームに馴染みの人や地域の人々が訪ねて来ている (参考項目:2,20)	○	1. ほぼ毎日のように 2. 数日に1回程度 3. たまに 4. ほとんどない
58	利用者は、一人ひとりのペースで暮らしている (参考項目:38)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	65	運営推進会議を通して、地域住民や地元の関係者とのつながりが広がったり深まり、事業所の理解者や応援者が増えている (参考項目:4)	○	1. 大いに増えている 2. 少しずつ増えている 3. あまり増えていない 4. 全くいない
59	利用者は、職員が支援することで生き生きとした表情や姿がみられている (参考項目:36,37)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	66	職員は、生き活きと働けている (参考項目:11,12)	○	1. ほぼ全ての職員が 2. 職員の2/3くらいが 3. 職員の1/3くらいが 4. ほとんどいない
60	利用者は、戸外の行きたいところへ出かけている (参考項目:49)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	67	職員から見て、利用者はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない
61	利用者は、健康管理や医療面、安全面で不安なく過ごせている (参考項目:30,31)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない	68	職員から見て、利用者の家族等はサービスにおおむね満足していると思う	○	1. ほぼ全ての家族等が 2. 家族等の2/3くらいが 3. 家族等の1/3くらいが 4. ほとんどできていない
62	利用者は、その時々々の状況や要望に応じた柔軟な支援により、安心して暮らせている (参考項目:28)	○	1. ほぼ全ての利用者が 2. 利用者の2/3くらいが 3. 利用者の1/3くらいが 4. ほとんどいない				

自己評価および外部評価結果

[セル内の改行は、(Altキー)+(Enterキー)です。]

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
I. 理念に基づく運営					
1	(1)	○理念の共有と実践 地域密着型サービスの意義をふまえた事業所理念をつくり、管理者と職員は、その理念を共有して実践につなげている	地域との関わりを表現、理解しやすい表現を掲げ見易い位置に掲示。共有し実践、契約時に説明している。	地域との係わりを大切にする理念と利用者と職員が1年間の目標も掲げそれぞれ具現化する努力をしている。	
2	(2)	○事業所と地域とのつきあい 利用者が地域とつながりながら暮らし続けられるよう、事業所自体が地域の一員として日常的に交流している	保育園、小学校の運動会、マラソン大会に連絡を頂き応援に行っている。育成会の御輿が来てくれ、庭でスイカ割りをし、交流を図っている。回覧板を回してもらい、道路愛護等に参加し地域交流を図っている。	地域に出掛け顔見知りになり、顔見知りだからこそホームに来てくれるようになった。育成会との交流や文化祭に出席したり、松樹会と交流し菊展に出向き玄関に展示したりしながら地域と繋がっている。回覧板も回ってきている。	
3		○事業所の力を活かした地域貢献 事業所は、実践を通じて積み上げている認知症の人の理解や支援の方法を、地域の人々に向けて活かしている	認知症について、知識をより一層深める為に認知症サポーター研修を開いたり、外出の時にコミュニケーションが図れる様にしている。		
4	(3)	○運営推進会議を活かした取り組み 運営推進会議では、利用者やサービスの実際、評価への取り組み状況等について報告や話し合いを行い、そこでの意見をサービス向上に活かしている	二ヶ月に一度、偶数月に参加者で日程を決めて実施。区長、行政、老人会、地域の代表、家族、利用者、職員も参加。行事、研修報告を通して意見を交換している。	小規模多機能施設と合同で定期的に開催され意見交換がされている。家族・利用者・市等が参加し現況報告・研修報告・お楽しみ会が行われている。	
5	(4)	○市町村との連携 市町村担当者と日頃から連絡を密に取り、事業所の実情やケアサービスの取り組みを積極的に伝えながら、協力関係を築くように取り組んでいる	運営推進会議の他に地域ケア会議やケアマネ会議、介護保険運営協議会に参加。職員が見守り支援員に登録。必要に応じて行政と相談、情報交換や協力を努めている。	沼田市の支援ネットワークへの協力や地域ケア会議・町のケアマネジャー研修等で連携している。更新申請の代行も行い情報交換をしている。	
6	(5)	○身体拘束をしないケアの実践 代表者及び全ての職員が「指定地域密着型サービス指定基準及び指定地域密着型介護予防サービス指定基準における禁止の対象となる具体的な行為」を正しく理解しており、玄関の施錠を含めて身体拘束をしないケアに取り組んでいる	身体拘束廃止マニュアルを作成、研修にも参加。身体拘束について共通の認識を持ちながら拘束を行わないケアに取り組んでいる。	鍵をかけないケアを実践し、窓のストッパーもはずした。職員は身体や言葉の拘束等でも自分が嫌な声かけを行わない等で職員同士意識するように努力している。管理者は高度な見守り支援を行えるように指導している。	
7		○虐待の防止の徹底 管理者や職員は、高齢者虐待防止関連法について学ぶ機会を持ち、利用者の自宅や事業所内での虐待が見逃されることのないよう注意を払い、防止に努めている	日々の業務を見守り、行き過ぎた言動のあった時は見逃さないで、その都度指導している。社会情報から話題を取り上げ、ケース会議で話し合っている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
8		○権利擁護に関する制度の理解と活用 管理者や職員は、日常生活自立支援事業や成年後見制度について学ぶ機会を持ち、個々の必要性を関係者と話し合い、それらを活用できるよう支援している	成年後見制度の説明を受け、職員に説明。ポスターと成年後見制度のについての資料を掲示。現在は活用している利用者はいない。		
9		○契約に関する説明と納得 契約の締結、解約又は改定等の際は、利用者や家族等の不安や疑問点を尋ね、十分な説明を行い理解・納得を図っている	重要事項説明書、運営規定を契約時に説明。疑問な点については十分な説明をし理解、納得を頂いている。		
10	(6)	○運営に関する利用者、家族等意見の反映 利用者や家族等が意見、要望を管理者や職員ならびに外部者へ表せる機会を設け、それらを運営に反映させている	面会時に家族の要望を伺い、常にニーズに応えられる様体制を整え状況を説明している。	職員は全体的に目を配りながら担当制をとり、家族との窓口は担当者が担い、『里通信』で一言掲載している。家族には外出や身体状況等で例を挙げながら意見を吸い上げる努力をしている。	
11	(7)	○運営に関する職員意見の反映 代表者や管理者は、運営に関する職員の意見や提案を聞く機会を設け、反映させている	ケース会議、施設検討会等月二回の会議の会議の中で意見交換を行い随時相談にも応じ情報収集を行っている。	希望休を出してもらい叶えられている。管理者は個々の職員の相談にのっている。有給を取ってもらったり、地域包括の研修、実践者・基礎研修への参加でサービスの質の向上を目指してもらいたいと管理者は思っている。	
12		○就業環境の整備 代表者は、管理者や職員個々の努力や実績、勤務状況を把握し、給与水準、労働時間、やりがいなど、各自が向上心を持って働けるよう職場環境・条件の整備に努めている	職員個々の努力や実績を把握し、100%のリクエストを勤務表に取り入れ、リフレッシュ出来る様に有給休暇が取りやすいように配慮している。		
13		○職員を育てる取り組み 代表者は、管理者や職員一人ひとりのケアの実際と力量を把握し、法人内外の研修を受ける機会の確保や、働きながらトレーニングしていくことを進めている	職員の経験年数と実績、個々の能力に応じた研修に参加、ニーズも取り入れている。		
14		○同業者との交流を通じた向上 代表者は、管理者や職員が同業者と交流する機会を作り、ネットワークづくりや勉強会、相互訪問等の活動を通じて、サービスの質を向上させていく取り組みをしている	地域密着型連絡協議会の総会や研修、地域拡大ケア研修の参加を通して質の向上に努めている。地域高齢者支援ネットワークのメンバーにも登録している。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
Ⅱ.安心と信頼に向けた関係づくりと支援					
15		○初期に築く本人との信頼関係 サービスを導入する段階で、本人が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、本人の安心を確保するための関係づくりに努めている	施設見学時や空き室のあるときのお試し利用、生活歴、家族、ケアマネージャーからの情報を共有。本人、家族の要望を把握し柔軟な対応が出来るように努めている。		
16		○初期に築く家族等との信頼関係 サービスを導入する段階で、家族等が困っていること、不安なこと、要望等に耳を傾けながら、関係づくりに努めている	施設見学、入所申込時に家族からの要望、困っていることをじっくり傾聴、課題解決出来るように取り組んでいる。		
17		○初期対応の見極めと支援 サービスを導入する段階で、本人と家族等が「その時」まず必要としている支援を見極め、他のサービス利用も含めた対応に努めている	施設見学、基本情報、事前調査により、本人の必要としている支援を見極め、現在の施設状況を説明、納得していただいた上で申込手続きをしていただき、必要に応じてケアマネに連絡。		
18		○本人と共に過ごし支えあう関係 職員は、本人を介護される一方の立場におかず、暮らしを共にする者同士の関係を築いている	職員は常に利用者の立場に立ち、どんな言葉にも傾聴の姿勢を保ち、能力を発揮できるように配慮、感謝の気持ちを忘れないようにしている。		
19		○本人を共に支えあう家族との関係 職員は、家族を支援される一方の立場におかず、本人と家族の絆を大切にしながら、共に本人を支えていく関係を築いている	月夜野の里通信や面会時に年間の行事参加への協力依頼、参加時は食事、車椅子移動の介助。季節毎の衣類の差し替え、眼科、歯科受診時家族の要望で職員が付添うこともある。家族との外出、外泊等要望に応じている。		
20	(8)	○馴染みの人や場との関係継続の支援 本人がこれまで大切にしてきた馴染みの人や場所との関係が途切れないよう、支援に努めている	馴染みの理容室での散髪の継続。デイサービス利用に来ている友人との交流、自宅付近を散策しながら懐かしい人との交流。行きつけの店で買い物をしている。	お試し利用として宿泊してもらっている。家で使っていたマットレスやお茶碗やお箸を持ってきてもらうことや電話の取次ぎ、通っていた美容室の利用継続やデイサービスの友人と面会したり等でそれまでの生活を遮断しない支援をしている。	
21		○利用者同士の関係の支援 利用者同士の関係を把握し、一人ひとりが孤立せずに利用者同士が関わり合い、支え合えるような支援に努めている	毎日の生活の中で状況に応じたコミュニケーション、交流が図れるように支援。作品の共同制作、レクリエーション時は個々の希望を取り入れて参加をしている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
22		○関係を断ち切らない取組み サービス利用(契約)が終了しても、これまでの関係性を大切にしながら、必要に応じて本人・家族の経過をフォローし、相談や支援に努めている	生活環境が変化することで生じる不安を傾聴、不安が軽減できるように対応、退所後も家族の訪問を大切に相談に乗っている。		
Ⅲ. その人らしい暮らしを続けるためのケアマネジメント					
23	(9)	○思いや意向の把握 一人ひとりの思いや暮らし方の希望、意向の把握に努めている。困難な場合は、本人本位に検討している	元旦に一年の抱負を書いたり、七夕で短冊に願い事を書いて貰っている。日常の言葉、言動の中から把握するように努めている。困難な場合は家族と相談している。	短冊に今の思いを書いてもらったり、家族の意向を確認し介護計画に反映させるようにしている。	
24		○これまでの暮らしの把握 一人ひとりの生活歴や馴染みの暮らし方、生活環境、これまでのサービス利用の経過等の把握に努めている	生活歴の情報を共有、得意なこと、趣味、馴染みの関係を把握し生活の中に取り入れている。本人の使用していた品物を持ってきて下さるように家族に伝え、持ってきて頂いている。		
25		○暮らしの現状の把握 一人ひとりの一日の過ごし方、心身状態、有する力等の現状の把握に努めている	本人の希望を伺い、食器拭き、片付け、洗濯物たたみ、買い物の手伝い、計算問題、塗り絵、読書など個々の能力を発揮できる様にしている。		
26	(10)	○チームでつくる介護計画とモニタリング 本人がより良く暮らすための課題とケアのあり方について、本人、家族、必要な関係者と話し合い、それぞれの意見やアイデアを反映し、現状に即した介護計画を作成している	本人や家族の希望を伺い、職員の意見も参考にして、一人一人に合った介護計画を作成している。3ヶ月に一度アセスメント、毎月1回モニタリングを実施し必要に応じて介護計画を見直している。	毎月のモニタリングを行い随時の見直しと変化が無い場合でも3ヵ月毎の介護計画の見直しを行っている。	
27		○個別の記録と実践への反映 日々の様子やケアの実践・結果、気づきや工夫を個別記録に記入し、職員間で情報を共有しながら実践や介護計画の見直しに活かしている	介護計画に基づいて記録、日々状況を観察、記録をし情報を共有、必要に応じて介護計画を見直している。		
28		○一人ひとりを支えるための事業所の多機能化 本人や家族の状況、その時々生まれるニーズに対応して、既存のサービスに捉われない、柔軟な支援やサービスの多機能化に取り組んでいる	自宅へ外出。馴染みの場所へ散歩。理美容室の利用。買い物、外食など家族と相談しながら希望に応じている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
29		○地域資源との協働 一人ひとりの暮らしを支えている地域資源を把握し、本人が心身の力を発揮しながら安全で豊かな暮らしを楽しむことができるよう支援している	地域の図書館に利用カードを作り、ビデオを借りて楽しんでいる。		
30	(11)	○かかりつけ医の受診支援 受診は、本人及び家族等の希望を大切に、納得が得られたかかりつけ医と事業所の関係を築きながら、適切な医療を受けられるように支援している	契約時に希望の医療機関を伺い主治医に受診出来るようにしている。緊急時に協力病院に受診することは家族からも了解が得られている。	入居時説明し希望により、全員が協力病院の支援を受けている。その他の科(歯科・眼科・婦人科)等は入居前のかかりつけ医に受診している。原則家族支援だが職員も受診支援を行い家族に電話で結果を報告している。	
31		○看護職との協働 介護職は、日常の関わりの中でとらえた情報や気づきを、職場内の看護職や訪問看護師等に伝えて相談し、個々の利用者が適切な受診や看護を受けられるように支援している	日々の生活状況、変化状況を看護師に報告、受診。受診後の様子を看護師に報告、情報を共有しながら対応している。		
32		○入退院時の医療機関との協働 利用者が入院した際、安心して治療できるように、又、できるだけ早期に退院できるように、病院関係者との情報交換や相談に努めている。あるいは、そうした場合に備えて病院関係者との関係づくりを行っている。	入院時には、生活状況を説明。早期から安心して治療が受けられるように支援。認知症による行動障害の様子も説明。精神的な安定が図れないときは医師と相談、病院と連携を保ちながら安心して治療に専念できる環境で対応している。		
33	(12)	○重度化や終末期に向けた方針の共有と支援 重度化した場合や終末期のあり方について、早い段階から本人・家族等と話し合いを行い、事業所でできることを十分に説明しながら方針を共有し、地域の関係者と共にチームで支援に取り組んでいる	契約時に重症化や終末期の対応について家族、本人に説明。医師より入院の指示が出るまで協力病院、デイサービスの看護師とも連携を図り協力を得ながら慣れた環境で生活が継続できるように取り組んでいる。	終末期に関する指針は作成され家族・協力病院・ホームの話し合いの基で協力病院の協力があり看取りの準備はできている。	
34		○急変や事故発生時の備え 利用者の急変や事故発生時に備えて、全ての職員は応急手当や初期対応の訓練を定期的に行い、実践力を身に付けている	急変、事故発生状況を把握。バイタル測定、身体上の変化を捉え初期対応が出来るように看護師より指導を受けている。		
35	(13)	○災害対策 火災や地震、水害等の災害時に、昼夜を問わず利用者が避難できる方法を全職員が身につけるとともに、地域との協力体制を築いている	年二回の避難訓練の他に深夜を想定した避難訓練。職員の工夫した品物を使って避難訓練。運営推進会議の中で近隣者の協力体制が得られている。又、協力病院からの協力体制も整っている。	消防署立会いの昼想定訓練と自主訓練を深夜訓練を含めて2回行っている。深夜訓練は夜勤者全員が日にちを変えて行っている。備蓄の準備はまだしていない。	自主訓練のさらなる増加と備蓄の用意をお願いしたい。

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
IV. その人らしい暮らしを続けるための日々の支援					
36	(14)	○一人ひとりの尊重とプライバシーの確保 一人ひとりの人格を尊重し、誇りやプライバシーを損ねない言葉かけや対応をしている	入浴、排泄対応時など羞恥心やプライバシーに配慮。家族の面会時には空間の配慮。名前を呼ぶとき等一人一人の人格を尊重した声かけを行っている。	入浴や排泄支援時には個別に声かけを行っている。自分が言われて嫌なことや人に聞かれたくないことには代わりの言葉を用いて対応している。家族への報告もできることを伝えてがっかりする言い方はしないように気をつけている。	
37		○利用者の希望の表出や自己決定の支援 日常生活の中で本人が思いや希望を表したり、自己決定できるように働きかけている	職員が強制的にならないように周知徹底をしている。本人が思いや希望を表現し自己決定出来るよに働きかけている。		
38		○日々のその人らしい暮らし 職員側の決まりや都合を優先するのではなく、一人ひとりのペースを大切に、その日をどのように過ごしたいか、希望にそって支援している	職員の都合では無く、その人らしく生活してもらえるように個々の状況や意向に合わせた対応を心掛けている。		
39		○身だしなみやおしゃれの支援 その人らしい身だしなみやおしゃれができるように支援している	起床時に整髪、髭剃り等を行えるようにしている。外出時には本人の気に入っている服を着用、女性の希望者には口紅をさしている。		
40	(15)	○食事を楽しむことのできる支援 食事が楽しみなものになるよう、一人ひとりの好みや力を活かしながら、利用者と職員と一緒に準備や食事、片付けをしている	希望により火、金の朝食をパン食にしている。楽しみ食等希望のメニューを伺い、買い物と一緒にしている。職員と一緒に準備したり、食卓を囲み、後片付けも手伝っている。	食材は近くのスーパーに利用者と一緒にったり、家庭菜園の野菜を使い下ごしらえを手伝ってもらっている。メニューは利用者から聞き、当日の変更も可能である。しょっぱい等の味の評価も聞いている。お楽しみ会や誕生会・お彼岸・丑の日等で変化をつけている。	
41		○栄養摂取や水分確保の支援 食べる量や栄養バランス、水分量が一日を通じて確保できるよう、一人ひとりの状態や力、習慣に応じた支援をしている	食事、水分等個々の一覧表に記入し把握している。声かけ、促し、食事を小分けにする等工夫し本人の持っている能力を活用できるように支援。本人のペースで摂取している。		
42		○口腔内の清潔保持 口の中の汚れや臭いが生じないよう、毎食後、一人ひとりの口腔状態や本人の力に応じた口腔ケアをしている	毎食後口腔内に食物残渣が無いか確認。声かけ、促し、見守りを行ない本人の能力が引き出せる様に口腔ケアを行なっている。口腔内健康チェックも行なっている。		

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
43	(16)	○排泄の自立支援 排泄の失敗やおむつの使用を減らし、一人ひとりの力や排泄のパターン、習慣を活かして、トイレでの排泄や排泄の自立にむけた支援を行っている	排泄表を記録。排泄のリズムを確認しながら誘導、羞恥心に配慮しながら本人の希望にも添っている。	排泄リズムの把握と身体的なサインを見守りながら掴みそれとなく誘導している。失禁時には他の利用者に分からないように清拭・部分洗浄・シャワー浴等で対応している。	
44		○便秘の予防と対応 便秘の原因や及ぼす影響を理解し、飲食物の工夫や運動への働きかけ等、個々に応じた予防に取り組んでいる	野菜を中心としたメニュー（食物繊維のある野菜）を取り入れ、10時の給茶時にはヨーグルト提供。毎朝体操や歩行練習を行なっている。排便観察を行ない医師と相談し薬を処方している方もいる。		
45	(17)	○入浴を楽しむことができる支援 一人ひとりの希望やタイミングに合わせて入浴を楽しめるように、職員の都合で曜日や時間帯を決めず、個々にそった支援をしている	声かけを行ない、本人の希望に添えるように支援している。希望により夜間入浴も行なっている。	毎日入浴できる体制ができている。基本は1日おきだが、毎日入っている人もいる。夜間入浴も実施されている。	
46		○安眠や休息の支援 一人ひとりの生活習慣やその時々状況に応じて、休息したり、安心して気持ちよく眠れるよう支援している	天候の良い日には、外気浴をしながら飲茶や野外食など行ない、リラックス出来るように支援、希望者には昼食後30分から1時間の急速を行なっている。		
47		○服薬支援 一人ひとりが使用している薬の目的や副作用、用法や用量について理解しており、服薬の支援と症状の変化の確認に努めている	処方薬の説明書を読み理解を深める。毎日バイタル測定を行ない健康状態を把握し変化に応じて主治医に連絡し受診。内服時、名前と本人確認を行ない誤薬しないように努めている。		
48		○役割、楽しみごとの支援 張り合いや喜びのある日々を過ごせるように、一人ひとりの生活歴や力を活かした役割、嗜好品、楽しみごと、気分転換等の支援をしている	洗濯たたみ、食器新井、拭き、掃除の手伝い、食材の下ごしらえ等、本人の能力に応じて役割を果たしている。誕生日、代替行事には本人の嗜好に合わせて地域で外食をしている。		
49	(18)	○日常的な外出支援 一人ひとりのその日の希望にそって、戸外に出かけられるよう支援に努めている。又、普段は行けないような場所でも、本人の希望を把握し、家族や地域の人々と協力しながら出かけられるように支援している	帰宅の希望があるときは自宅まで外出している。家族の面会時に外出の希望ある時は自宅まで外出、外泊する等協力が得られている。	天気の良い日には外気浴を兼ねたお茶会を行っている。外出行事も多く散歩や自宅を見に行ったり、季節の花見や買物は日常的である。野菜作りや収穫、近所の方との外出、系列の小規模多機能施設への訪問等の支援を行っている。	

自己	外部	項目	自己評価	外部評価	
			実践状況	実践状況	次のステップに向けて期待したい内容
50		○お金の所持や使うことの支援 職員は、本人がお金を持つことの大切さを理解しており、一人ひとりの希望や力に応じて、お金を所持したり使えるように支援している	施設内では家族の意向もあり、所持金は持っていないが、買い物時にはお金を渡して支払いをしていただいている。		
51		○電話や手紙の支援 家族や大切な人に本人自らが電話をしたり、手紙のやり取りができるように支援をしている	自ら電話を掛けることはないが家族から来た電話には出ている。		
52	(19)	○居心地のよい共用空間づくり 共用の空間(玄関、廊下、居間、台所、食堂、浴室、トイレ等)が、利用者にとって不快や混乱をまねくような刺激(音、光、色、広さ、温度など)がないように配慮し、生活感や季節感を採り入れて、居心地よく過ごせるような工夫をしている	季節の花を飾り、季節感を取り入れている。季節に合わせて、ちぎり絵や貼り絵等を制作し掲示している。	多くの窓から山が良く見え明るい日差しが差し込んでいる。対面式のキッチンからも見守りができる。利用者と職員の1年の目標や七夕の願い事が掲示されている。行事の写真や育成会の方々からの寄せ書きが貼られている。	
53		○共用空間における一人ひとりの居場所づくり 共用空間の中で、独りになれたり、気の合った利用者同士で思い思いに過ごせるような居場所の工夫をしている	広い廊下空間に椅子を置いて一人になれる空間がある。		
54	(20)	○居心地よく過ごせる居室の配慮 居室あるいは泊まりの部屋は、本人や家族と相談しながら、使い慣れたものや好みのものを活かして、本人が居心地よく過ごせるような工夫をしている	契約時に自宅で使用していた馴染みの品物を持ってきて頂くようお願いし、慣れた生活環境が保てるようにしている	身体状況に対応したフローリングと畳の居室がある。時計やお人形、カレンダーや写真、衣装ケース・テレビや椅子が持ち込まれ入居前の生活が伺える部屋もある。	
55		○一人ひとりの力を活かした安全な環境づくり 建物内部は一人ひとりの「できること」「わかること」を活かして、安全かつできるだけ自立した生活が送れるように工夫している	自室が分かるように表札の高さの工夫。トイレ、洗面所などわかりやすく表示している。		